

OLIVE-SPIRIT

関東学院学報 オリーブ・スピリット

March. 2017

No. 52



国際都市・横浜にある総合学園と連携教育の新しいシンボル。関東学院のロゴマークが誕生しました。

関東学院は数年にわたり、その目指すべき未来像の構築と共有を進めてきました。今回のロゴマーク制定により、学院全体の理念や行動計画の統一に加え、長年の課題であつたビジュアルの統一が実現。関東学院のスクール・アイデンティティや連携教育のシンボルとして、内外に発信していきます。そこでロゴマークの企画・制定に携わった望月正光常務理事に、デザインに込めた思いや、連携教育への展望をうかがいました。



関東学院 常務理事（企画担当）

望月 正光

東京都立大学大学院社会科学研究科経済政策専攻博士課程を満期退学後、1986年関東学院大学経済学部に着任。
2008年経済学部長に就任。
2014年より関東学院 企画担当常務理事。

こども園から大学まで擁する 学院全体のシンボル

学校法人関東学院は、2011年より、

学院の将来構想を示す「グランドデザイン」、中期事業計画「Olive7」、そして10年後へ向けた具体的な施策である「未来ビジョン」の策定に取り組んできました。

こうした学院全体の方向性や未来像について議論を行うなかで、当初より、総合学園としての理念を内外で共有し、学院全体のシンボルとなるようなロゴマーク制定の必要性が論じられてきました。

意外に思われるかもしれません、これまで各校の校章はあったものの、関東学院全体を象徴するロゴマークは制定されていなかったのです。そこで、多くの方々のご意見や思いを反映し、時間をかけて検討を重ねた結果、このほど遂に学院ロゴマークが決定いたしました。

2017年度より、こども園、小学校、中学校高等学校の各校でも未来ビジョンが本格的に始動します。大学を含めた学院全

体で教育の改革へと歩み出すこの機会に、新しく誕生した学院ロゴマークを正式に発表させていただきます。

普遍的な教育理念のもと 世代を超えて愛される デザインに

このロゴマークは、関東学院を象徴する色であるオリーブグリーンを基調としながら、創立の地である横浜・神奈川の海をイメージしたブルーを組み合わせたデザインになっています。下段には波をかたどた文様を配置。そして、7枚のオリーブの葉は、こども園、小学校、中学校高等学校、大学までの全7校を表しています。学院名は漢字表記のほか、海外での使用を考えて英語表記も用意。フラッグとしての使用や、文字とマークを分けての使用も可能で、汎用性の高いデザインにしています。

作成にあたり、最も重視したコンセプトは「世代を超えて愛されるシンボル」であることです。創立150周年を迎える20

34年、そしてその先もずっと、関東学院が標榜するキリスト教教育の普遍的な価値が変わることなく、受け継がれていくことは、それが学校法人関東学院としての、一つのミッションだからです。そのためにも幅広い世代に愛されていくものにしたいと考えました。子どもたちや学生が社会に出て、このマークを見た時、学院で培つた精神的なバックボーンを思い出してくれたなら、それが私たちの教育の最大の成果と言えるでしょう。

デザインを担当したのは、キリンラガービールのラベルデザインなどで知られる、著名なアートディレクターであり、美術や文化への造詣の深さでも知られる、渡邊かわさんです。残念ながら渡邊さんは一昨年3月に他界され、ロゴデザインとしてはこれが生涯最後の作品となりました。こうした著名な方が、学院の理念やバックグラウンドを理解し、デザインとして集約していくことは大変ありがたいことであり、大切にしていかなくてはと思っています。

関東学院の連携教育と グローバリズムを内外に発信

本学院は校訓「人になれ奉仕せよ」を共有しつつ、各校の独自性を尊重した教育を行ってきました。私は、今回のロゴマークの誕生が、本学院の連携教育をさらに深めていくきっかけとなることを願っています。

従来の連携教育は、主として各校の先生がたの個人的なつながりを中心に行われて

関東学院ロゴマーク	関東学院各校校章・ロゴマーク	関東学院スポーツマーク

渡邊 かをる氏

1943年東京築地生まれ。1967年日本大学芸術学部卒。同年、VANチャケット入社。宣伝部監修室長として、VANブランド、SCENE、NIBLICKなどのアートディレクターを務める。1978年同社退社。同年、井上嗣也、下村紀夫とビーンズ設立。1981年渡邊かをるインク設立、キリンラガービールのラベルをデザインするなど、広告のアートディレクターとして活躍する一方、陶磁器、美術一般への造詣の深さと、その率い人生スタイルにも定評があった。

関東学院の初等中等教育を担う6校が、10年後の理想を描き、歩み出す。 「未来ビジョン（各校編）」がスタートします。

今年で創立133周年を数える関東学院。

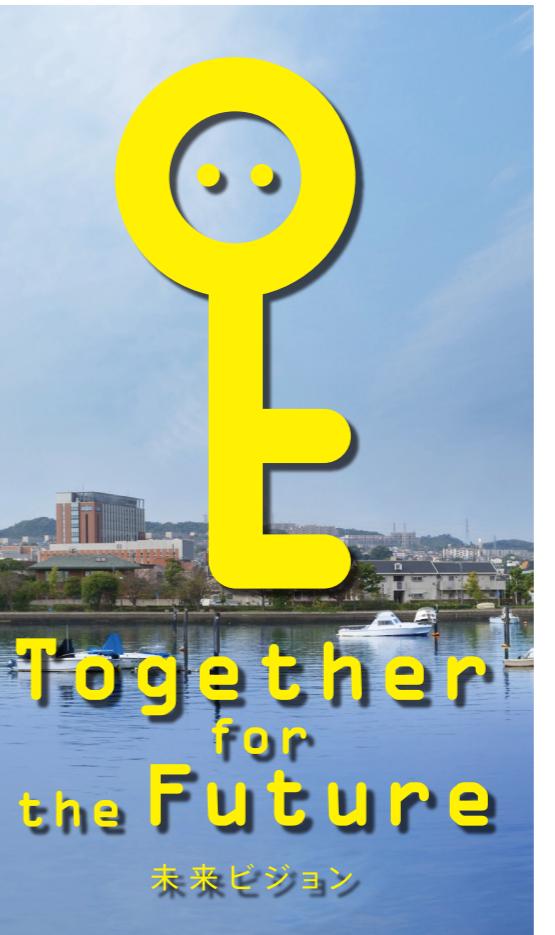
2016年度から動き出した「未来ビジョン・大学編」に続き、

2017年4月より「未来ビジョン・各校（園）編」が本格実施されます。

こども園から高校まで、各校の今後10年間のロードマップと具体的なアクションプランも作成され、

学院一丸となった連携教育への期待も一層高まっています。

そこで小河陽学院長に今、「未来ビジョン」に取り組む意義と、関東学院が目指すべき教育の方についてうかがいました。



三春台・六浦・野庭の各校が
10年後を見据えた改革に着手

関東学院では、創立150周年に向けた各校の教育理念と方向性を示す長期目標「グランドデザイン」を2011年に、それを具現化するための中期目標「Olive 7」を2012年に作成しました。そこに示された理念や計画のもと、各校の10年後のあるべき姿を明確にし、到達するための具体的な数値目標や道筋を描いたものが「未来ビジョン」です。一足早く昨年始動した大学に続き、いよいよ今年から、こども園、小学校、中学校、高等学校の6校が、その本格的な取り組みをスタートさせます。

各校は「10年後の目指す学校像」を示したうえで、軸となる3つのビジョンを設定。それを実現するための基本戦略とプロジェクトを実行していくことで、学院全体の改革を内外で実感できるようにします。その



変動社会の荒波を進むための羅針盤が求められている

社会がこれほど急激に変化すると、将来の見通しというのはなかなか立てづらいものです。どの大学でも、これから何を目指せばいいかわからないという学生が増えてきます。そうした時代を生き抜くためにも、普遍的な価値と未来へのビジョンに基づいた教育が重要です。それは決して宗教的な価値観を押しつけることが目的ではなく、

自分が何のために存在し生きようとしているのかという問いかけ、いわば「人生的の羅針盤」を与えることがあります。そのうえで、どういう方向に進んでいくのかは、それぞれが個々に決めていくことです。そうした羅針盤となるものを、今の教育は再認識することが必要ではないでしょうか。まさにそうした意味において、未来ビジョンが、学院のあるべき将来像へと進んでいく羅針盤となることを期待しています。

変わりゆく世にあるからこそ普遍的な価値観に基づいた教育を根づいた教育を

現代社会は、少子高齢化やグローバル化、高度情報化、さらには国の財政難や教育政策の転換などにより、めまぐるしく変化しています。そんな社会のニーズに応えるべく、未來の担い手を育成する学校教育も、その内容やあり方を見直すことが大きな課題となっています。とはいって、効率を優先させたいかわからないという学生が増えてきました。そうした時代を生き抜くためにも、普段的な価値と未来へのビジョンに基づいた教育が重要です。それは決して宗教的な価値観を押しつけることが目的ではなく、

人間教育ではできない先取的な教育を行ってきました。とりわけキリスト教学校においては、人格教育を重視してきたとい

う主張があります。それは日本の社会のあり方や指針に対抗するものでは決してなく、むしろ公教育が狙つている以上の教育を、私学は意識しなくてはいけないということです。

私たち関東学院にとって、その核となるのはキリスト教の精神に基づく、個性を大切にした人格教育に他なりません。校訓「人になれ奉仕せよ」という、建学当初から継承されてきた普遍的な教えこそ、現代社会で力説されている「グローバル人材の育成」の本質であると、私たちは考えます。

キリスト教に基づいた 総合学園としての強みを推進

人格教育とは、わかりやすく言えば、トータルな人間性の育成です。経済活動や知識、情報処理能力というのは、人間生活の営みの一領域にしか過ぎません。私たちが教育の場で意図するのは、そうしたものなどをどのように社会や人のために役立てていけるか



関東学院 学院長
小河 阳

ストラスブル第二大学プロテスタント神学部博士課程修了。
弘前学院大学文学部教授、立教大学文学部キリスト教学科教授を経て、
2010年関東学院大学経済学部に着任。
2014年より関東学院学院長。

こども園となり5年目。 総合的な保育・教育を 実践する施設だからこそ できる地域貢献を。

6ヶ月から6歳までの乳幼児が集う関東学院のびのびのば園。
専門知識とりーダーとしての自覚を持つた職員が、
人生の基盤となる教育を担う大きな責任と向き合いながら、
新たなミッションへと歩んでいきます。



関東学院のびのびのば園 園長
井上 恵子

明治学院大学文学部卒業後、
母校である関東学院中学校高等学校の
英語科教諭として着任。
2011年NPO法人クリエイティワールド
理事長を務める。
2016年より関東学院のびのびのば園園長就任。

試行錯誤の4年間を経て 新たな挑戦がスタート

本園が幼稚園からこども園に移行したのが2012年。5年目を迎えた今年は、こども園としての使命とは何かを改めて考える時期ではないかと思いました。私たちが目指す学校像は、「夢と希望と愛に満ちたこども園」。基軸になるのは一人ひとりを大切にする「キリスト教保育」。そして「地域とのつながり」「業務体制の再構築」という3つの視点から新たな価値の創造を図ります。

以前は幼稚園からこども園という理由で入園された方も多かったと思います。こども園となつた今は、地域における保育・教育を担う先取的な施設として、保護者や地域の期待を受けて成長することが大切です。そこで2017年度の新しい試みとし

院内連携については、中学校・高校との交流や職業体験、大学の教育学部や看護学部、栄養学部の実習を受け入れる一方、私たちも大学で学ばせていただくことで、互いの学びの機会を増やしていくことと期待しています。

代表的な施策が「園庭の冒険遊び場化計画」です。子どもたちが自由な発想で、全力で遊べる園庭のあり方を、教職員一同で日々考えています。自然豊かで、危険な部分もあえて取り入れ、冒險心や危険察知能力を育成。保護者の皆さんにもご参加いただき、特に「お父さんの会」には遊具作り等で多大なご協力をいただいているいます。子どもの行動を見守る教職員のスキル向上も重要です。日常的に研修や事例研究を行い、感覚を研ぎ澄ませています。



**主体性と創造性を育む
恵まれた環境を活かして、
子どもも教員も保護者も
学び合える場所でありたい。**

子どもは好奇心とチャレンジ精神のかたまりです。そこから生まれる遊びやアートに同じものは一つとありません。

関東学院六浦こども園は、独自の視点で自分らしさを育み、地域の子育て拠点としての価値を高めています。

多様な学びを実現する 革新的な園庭と室内環境

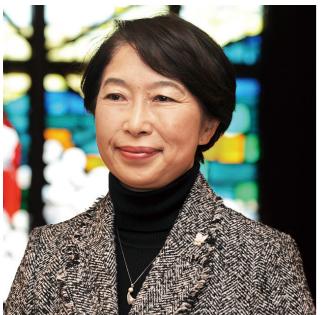
2013年に幼稚園からこども園として歩み始めた関東学院六浦こども園は、今まさに改革の途上にあります。時代を先取りした保育・教育施設として、10年後20年後のこども園全体の価値を確立するためにも、多様なニーズに応えられる園として成長していくことが大切です。

未来に向けて目指す学校像は「神様に託された子どもたち一人ひとりを受け止められる環境のもと、アートを取り込んだ質の高い保育・教育を行い、子どもも大人も育まれることも园」です。その道筋として「キリスト教保育」「遊びとアート」「地域の子育て拠点」という3つのビジョンを設定しました。今回は私たちの特色が最も表れている「遊びとアート」を中心にご説明いたします。

室内環境では1階と2階にアトリエを設け、多様なアスレチックやものづくりを体験できる空間を整備。今後は中身の充実を図るためにアートの専門知識を有する指導員「アトリエリスター」の配置を計画しています。また、大学の教育学部の先生や学生との連携のもと、子どもたちの創作活動を支援。アートを取り入れた幼児教育で世界的有名なイタリアのレッジョ・エミリア市への視察も、できれば今年度から来年度にかけて実施したいと思います。

すでに地域に開放している講座や相談会、未就園児のための親子授業などの活動をさらに充実させ、子育て拠点としての役割を果していきます。冒険遊び場の開放についても検討中です。また、次世代の保育者を育てるためにも、小中高との交流を深めたいですね。

少子化が進むなか、近い将来、園も選ぶ時代が来るでしょう。その時に選んでもらえるこども園であるように、一体となつて課題に取り組んでいきます。



関東学院六浦こども園園長
根津 美英子

関東学院女子短期大学幼稚教育科卒業後、
上星川幼稚園、
関東学院野庭幼稚園で教諭として務める。
2009年より関東学院六浦幼稚園
(現:関東学院六浦こども園)園長就任。



すべての教育活動は、子どもたちの笑顔のために。サプライズにあふれた、夢と出会える学校へ。

関東学院小学校の未来ビジョンは、「夢を育む学校」がテーマです。「ほんの学校」「ICT教育」など特色ある活動に定評がある同校。その成果を活用しながら、常に発展と更新を続ける教育は、すべてが子どもたちの笑顔と夢、奉仕の心の育成につながります。

関東学院小学校 校長
岡崎 一実

横浜国立大学大学院教育学研究科修士課程修了後、神奈川県内の公立小学校で教諭を務める。平和学園小学校の教頭、校長を経て、2012年より関東学院小学校校長就任。



未来に引き継ぐべき 教育を見極めて ブラッショアップし、 地に足のついた改革を。

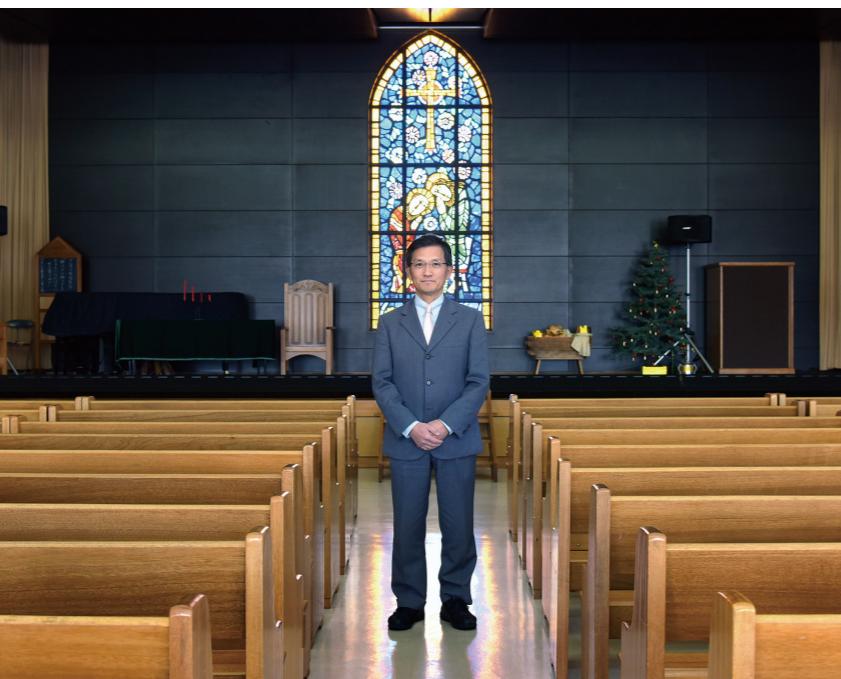
関東学院六浦小学校が目指すのは「共生・共創の心をもつ児童を育む学校」。これまでに築き上げた教育の成果を見直して共有するとともに、新たな価値を創出し、地域全体の児童教育のレベルアップにも意欲的に取り組んでいきます。

子どもたちの目と言葉で 未来へ紡がれる新聞教育

私たちが目指す学校像は「共生・共創の心を持つ児童を育む学校」です。キリスト教を土台として、子ども自身が愛されることは、実感するなかで、自己と隣人を大切に、平和な世界を創り出す心を育てます。そのため、児童に直接関わる「教育活動」、それを実現するための「教員の育成」、私学としての「子育て支援と地域連携」という3方面のビジョンから理想の学校像に迫っていきます。今回はそのうちの「教育活動」を中心にお話ししたいと思います。

未来ビジョンとは何か。それは、今やつてないことに向かうのではなく、「未来を担う子どもたちを、まさに今育てる」とだと思います。そこで、現在取り組んでいる教育の中で、未来につながるものを選択して磨いていこうと考えました。

未来ビジョンとは何か。それは、今やつてないことに向かうのではなく、「未来を担う子どもたちを、まさに今育てる」と思います。そこで、現在取り組んでいる教育の中で、未来につながるものを選択して磨いていこうと考えました。



2014年度から導入しているアドベンチャープログラムは、本校独自の教育プログラムとして、環境整備を含めて発展させます。特に施設面では、東日本大震災以来使用していないプールを解体し、アドベンチャープログラムを含めた多様な学びができる施設の整備を進める予定です。

さらに、大学との連携、新人教員の育成や内外での研究授業の整備を進める一方、放課後の預かりカナンや、周辺の園や小学校との幼保小の連携交流など、地域の子育て支援や児童教育に私学としてより一層の貢献をしていきたいと思います。



関東学院六浦小学校 校長
石塚 武志

立教大学文学部教育学科卒業後、関東学院六浦小学校に着任。その後、関東学院小学校へ異動。2013年より関東学院六浦小学校校長就任。

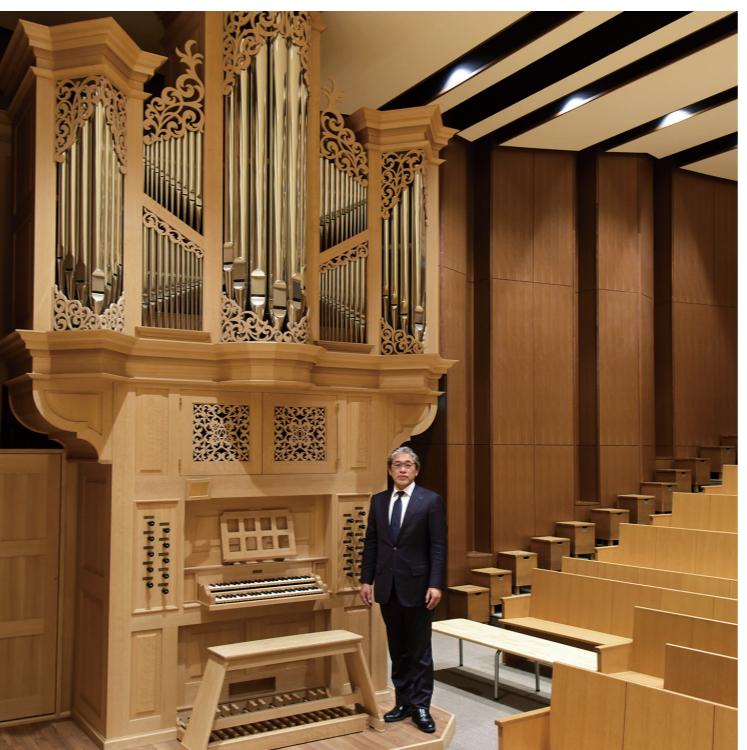
現行の改革をさらに発展させ 常に理想へと向かつていく

関東学院小学校の未来ビジョンは、「夢を育む学校」をテーマに掲げています。その学校像のもとに、「教育内容」「環境整備」「ブランド構築」という3つのビジョンを立て、それぞれ基本戦略と具体的な策を設定しました。先進的な教育内容とそれを支える教育力を柱に、施設設備や学習環境を計画的に整備し、結果として三春台ブランドの構築につなげるという構成になっています。

本校に着任した5年前から、私は「夢を育む学校」をテーマに改革を進めてきました。今回の未来ビジョンも、その延長線上に目指すべき方向性があると考えました。10年後に何かを完成させるのではなく、これまでの取り組みを生かし、毎年新しい成果を積み上げていくことが大切だというこ

とです。
ビジョンの前提となるミッションは、「子どもたちの笑顔のために」です。驚きや自信を得た時の「にこっ」という笑顔。卒業式での「この学校に来てよかったです」という希望に満ちた笑顔。すべての教育活動はこの笑顔につながるミッションと言えるでしょう。

3つのビジョンのうち、「環境整備」については、施設や備品など、設備面と、学級規模や教員定数といった教育環境があります。設備面ではここ数年、新校舎、人工芝、トイレ改修、パインオルガン設置など毎年更新を続けてきました。今後は三春台の校地整備計画における中高新体育館建設に



運動して、小学校体育館の併設と校庭の整備を実現したいと考えています。また、きめ細かく創造的な教育を実現するため、適正な学級規模や教員配置の検討を進めています。
「ブランド構築」に関しては、受け継ぐものと変えていくものを見極めて、常に新しいサプライズに出会える学校をアピールしたいと考えています。そのため、施設の「この学校に来てよかったです」という笑顔。卒業式での「この学校に来てよかったです」という笑顔につながるミッションと言えるでしょう。

「ブランド構築」に関しては、受け継ぐものと変えていくものを見極めて、常に新しいサプライズに出会える学校をアピールしたいと考えています。そのため、施設の「この学校に来てよかったです」という笑顔。卒業式での「この学校に来てよかったです」という笑顔につながるミッションと言えるでしょう。



関東学院六浦中学校・高等学校 校長
黒畠 勝男

北星学園大学文学部卒業後、
北海道立高等学校で教諭を務める。
立命館慶祥中学校・高等学校教頭、
酪農学園とわの森三愛高等学校副校長を経て、
2014年より関東学院六浦中学校・
高等学校校長就任。

できるだけ早い学齢で世界を体験し、日常の学びを未来につなげる。

2015年入学生から大きく英語教育を変えた、
関東学院六浦中学校・高等学校。
他国の文化や加速するボーダーレス化の景色を、
生徒自らの目や肌で感じてもらうために、
学校設定科目の地球市民講座をベースに
語学と独自のグローバル教育をさらに発展させてい

九

生きるための力を育む
英語教育と気づきの教育

10年後、20年後の世界を想像すると、おそらくは人工知能やロボット、ICTの発

同時性はさらに加速していることでしょ

奉仕の志を持つて社会に貢献し、グローバル化・ボーダレス化の進む社会でたくましく活躍する人材を育成する。この上位目標を達成するため、各学年で以下の目標を達成する。

「私たちは中学入学の時点で「英語は教科ではありません。生きるための力です」という



2014年9月に設置したENGLISH LOUNGE



関東学院中学校高等学校 校長
富山 隆

青山学院大学卒業後、
1978年に関東学院中学校高等学校に着任。
国語科教諭として30年以上にわたり
関東学院中学校高等学校で教壇に立つ。
2003年より関東学院中学校高等学校校長就任。

社会の変化に柔軟に対応した教室のあり方を考える一方で、キリスト教をベースに、主体的に人生を歩める力を養う。関東学院中学校高等学校は、人同士が触れ合い、個性を發揮しあつて学ぶ、ここにしかない環境づくりに挑みます。

時代や社会の流れを見定めて
進むべき未来に光を当てる

情報機器やネットワークの発達により、互いの顔が見えない状態でも人とつながる生活が成り立っている現代。単に学ぶだけなら、学校に行かなくても済むという声も聞かれます。しかし本来、学校とは、人と人との直接触れ合い、時には感情をぶつけ合いで、ここから先は踏み込んではいけないという距離感を知るなど、人が集まらなくてはできない学びをする場所です。

教室でも気配を消している生徒がいます。それでは社会に出てからの生活は成り立ちません。そこで、社会と直結した学校のあり方を踏まえ、なぜ学校という場所が必要なのかを改めて問い合わせことから、私たちの未来ビジョン作りは始まりました。

ついて考える機会を設けていきます。

教科教育については、中高の現実的な問題とて、2020年度からの大学入試改革への対策があります。受験科目としての英語のあり方が大きくなり、度の高校1年生からカリキュラムを一新。今夏には内容を発表する予定です。各種英語試験対策です。国内外での英語研修、隣のインターナショナル小学校との交流などを通じて、英語を身近なものにします。また、関東学園小学校と連携して海外留学を視野に入れたプレミ



踊りであり、文化であり、グローバルな言語でもある。フラを通じて、生徒たちに自分を表現してほしい。

関東学院中学校高等学校でダンス部顧問を務める石井奈津希先生。フラとの出会いは、江ノ島で行われていたステージを見たのがきっかけです。

「素敵な笑顔の裏で、ものすごく足腰を使つ

ているのがわかりました。これはすごい運動効果があるなと。しかも、おばあちゃんになつても続けられる、ある意味生涯スポーツだと思い、趣味として習い始めました

た」



関東学院中学校高等学校 体育科教諭
石井 奈津希さん

中学生のクラス担任を務める。
ダンス部顧問。
自身はハンドボール選手だった一方、
小さい頃からコンテンポラリーダンスや
ヒップホップダンスに親しんできた。

もともとハワイアンミュージックが好きだった石井先生。家中のインテリアをハワイ風に変えてしまうほど、のめり込んでしまったそう。

「ちなみにフラ（hula）という言葉はハワイ語で『踊り』という意味なので、フラとだけ呼ぶのが正式です」

7年ほど続けてきた稽古も出産や育児を経て、ここ数年は中断していました。それが関東学院に赴任して、生徒たちの「フラを教えて！」の一言で指導を始める

「生徒たちの、出たい！という心一つで、舞台に立つことが叶いました」

その大会で新人賞を受賞。スピリゾート部門に立つことが叶いました。また、かんらん16年には生徒たちの熱意が通じて、同好会からハワイアンズで行われたエキシビジョンにも出場しました。20甲子園に参加しました。

16年には生徒たちの熱意が通じて、同好会からハワイアンズで行われたエキシビジョンにも出場しました。また、かんらんお祭りでの発表、福祉施設でのボランティアも行っています。

「フラを通じて人に喜んで



▲練習の時も、表情や指先まで思いを込めて。

自分が存在が相手に感動を与える経験は、滅多にできることがないと、石井先生は言います。

「フラを通して、自分にもできることがあるんだと気づくきっかけを、たくさん与えていただきたいですね。生徒達の頑張る姿を見て、私自身、フラの奥深さをこれからもずっと学んでいきたいと思います」

石井先生とフラガールズたちの挑戦は、これからも続いているま



▲2016年「第6回フラガールズ甲子園」での演技。衣装やメイクも自分たちで考えました。

独自の着眼点と創造力で、プログラミング全国大会に入賞頭の中にあるイメージを形にでらねりとが楽しい。

関東学院六浦中学校でコンピュータのクラブ

(student.computer.service)に所属する寺尾魁航くん。昨年、「第一回全国小中高プログラミング大会」に自ら開発したゲームを応募。最終審査に進出する10名に選ばれ、

見事に入賞を果たしました。

ゲームのタイトルは「KX.net」。次々と現れる敵を倒していくシンプルなゲームですが、そこには寺尾くんならではの工夫がありました。



▲タッチパッドを操作して、移動やジャンプ、急降下、数種類の攻撃を使い分け敵キャラを倒す「KX.net」。

「このゲームは、キーボードをいつさい使わず、マウスもしくはタッチパッドで操作します。押したり、叩いたり、弾いたり、指先だけでさまざま動きや攻撃ができるんです」

「キーボードを意識せず、画面だけを見て楽しめるゲームを作りましたかたがつたという寺尾くん。直感的な操作を実現するため、粘り強く何度も何度も微調整したそ�で

「キーボードを使わなければ、画面だけを見ても操作を実現するため、もう一つ理由があつて。いずれはスマートフォン用のアプリゲームとしても開発

したいからです」

背景の近未来的なビルの街並みも、寺尾くん自身が制作。プログラミングの技術はもちろん、その洗練されたビジュアル感覚にも驚かされます。でも、寺尾くんによる、このゲームはまだまだ試作段階なのだと。

「今はステージが一つしかないのですが、それが何なのかは、完成するまで秘密です。いつかは「KX.net」シリーズのゲームを作りたいと思っています」

どうやら壮大な構想を持つていてるらしいのです。こうしたアイデアや発想は「自然に湧いてくる」のだそう。そんな寺尾くんに、プログラミングの魅力を聞いてみました。

「やり方さえ覚えれば、自分のオリジナルのものが作れることです。将来はゲームクリエイターになつて、これまでなかつたゲームをたくさん作つて売り出したい。イメージはもう頭の中にあるので」

そのイメージがどんなものなのか。つか寺尾くんがゲームを作つてくれる日まで楽しみに待ちたいと思います。



関東学院六浦中学校 2年
寺尾 魁航くん

小学4年生の時、ゲームクリエイターの仕事に興味を持ったことをきっかけに、プログラミングを学び始めた寺尾くん。「これからもコンテストや大会があれば積極的に挑戦したいと思います」

「生徒たちの、出たい！という心一つで、舞台に立つことが叶いました」

「フラの良さは、全員が主役になること。だから踊りと笑顔で、世界中の人に思いを伝えることができる。教育的な価値も素晴らしいものがあると感じたそうです。そして2015年、ダンス同好会として、福島県いわき市で行われている「フラガールズ甲子園」に参加しました。

「生徒たちの、出たい！という心一つで、舞台に立つことが叶いました」

その大会で新人賞を受賞。スピリゾート



▲昨年10月22日に最終審査と表彰式が行われました。

関東学院ネットワーク

関東学院の卒業生が経営に携わっているお店を訪ねるコーナー。
今回は横浜中華街で人気のファッショングランドをご紹介します。

ROUROU 横浜中華街店

住所／神奈川県横浜市中区山下町130番地11 ☎/ 045-662-0466
営業時間／11:00～20:00 定休日／第3木曜日
※2階はプレミアムライン「Lotus Room」を展開。
路地裏に「ROUROU Café」併設。各店の詳細はHPをご確認ください。
<https://www.rourou.com>

架空の国をイメージした
独自の服作りが人気

横浜中華街・関帝廟から脇道に少し入ると、異国情緒あふれるオシャレな洋服と雑貨のお店「ROUROU」があります。「独自の進化した文化や美術を持つ、アジアの未知の国、隕隕國（ろうろうこく）。そんな架空の理想郷の服をイメージしてデザインしています」



そう語るのは、株式会社ロウロウジャパンの代表取締役を務める石河陽一郎さん。茅ヶ崎市出身で、関東学院大学経済学部の卒業生です。子どもの頃から独立願望があったという石河さん。小1から小4まではシンガポールに住んでいたそうです。「シンガポールは人種のるつぼなのに、平和と秩序が保たれていました。また、アジ

ア人には共通の美意識があると感じ、ファッションを通じて、平和な世界を表現したいと思ったんです」

デザイナーを務めるのは、モデルとしてパリコレ出演経験もある、奥様の早園マキさん。お二人は小・中・高校の同級生でもあります。お店をオープンしたのが2000年12月。

「実は開店した時は雑貨屋のつもりでした。でも、気がついたら洋服が多くなっていて。店に来た友人も、ここ、洋服屋だよね？」

て(笑)

今ではネオアジアンティストの独自の世界観と、こだわりのものづくりで、日本中にファンを持つ人気店に成長しました。

「問屋やメーカーを通さずに、オリジナルの服を作っています」

お客様やスタッフ、取引先、地域の方たちなど、人とのつながりを何より大切にしてきたROUROU。この春夏は、瀬戸内海の神話や自然、海賊などにインスピライされた服も店頭に並ぶ予定だそうです。



広報から

関東学院では、創立140年を迎える2024年に向けて、これからの関東学院が目指す将来構想「未来ビジョン」を策定しました。昨年から動き始めた大学編に続き、2017年4月からは、こども園、小学校、中学校高等学校の6校でも本格的に始動します。また、総合学園として今後さらに一體的な教育改革を進めていくため、学院全体の理念や行動計画が整備されたこの機会に、関東学院全体のシンボルとなるロゴ・マークも新たに制定しました。

グローバル化の進展や、急速な情報化にともなう技術革新などにより、私たちを取り巻く環境が刻一刻と変貌を遂げるなか、子どもたちの成長を支える教育の在り方は、重要な社会的課題となっています。これから

確実性の高い未来を生き抜くために、基礎的な知識や技術に加え、将来起これり得る様々な変化に柔軟に対応することのできる資質や能力をはぐくむ教育が求められています。子どもたちの学びの上での様々な挑戦を後押しできる、時代の先を見据えた先取的な教育。今まさに、私立学校としての教育の真価が問われているのではないでしょうか。

関東学院は、建学以来堅持してきたキリスト教の精神を礎に、10年後20年後のあるべき姿を目指して、未来ビジョンに基づいた改革を積極的に進めています。これからの関東学院の挑戦に引き続きご期待ください。

関東学院 広報企画課
(045)786-7006 / kouhou@kanto-gakuin.ac.jp

関東学院大学 ウィンドサーフィン部で活躍する倉持大也選手。2017日本代表の一員に選出されました。



関東学院大学 ウィンドサーフィン部

倉持 大也 さん

人間環境学部 人間環境デザイン学科 4年。
2017年、日本セーリング連盟オリンピック強化委員会によりRS:X級男子日本代表に選出。

「両親がアウトドア派で、子どもの頃に家族と逗子で無料体験したのがウィンドサーフィンを始めたきっかけです。気がついたらすっかり夢中になっていました」

そんな倉持選手に、
ウィンドサーフィンの魅力を尋ねると、「速度が上がるとボードが浮き上がって、水面を滑るように一気に加速します。この状態をブレーニングといいのですが、その時の滑走感がすごく好きですね」

時速40kmほどに達するそうですが、海上では陸上の3倍の体感スピードがあるため、恐怖感を覚えることもあります。だからこそ、自然との闘いであると同時に、自分との闘いもあるスポーツです。小さい頃からやつてきたので、操船技術は得意だと思っていました

「どんな強い風でも練習してきた経験値があったので、他の選手が操船に苦しんでいる状態でも、落ち着いていつも通りやれば勝てるという自信がありました」

学生最後の大会となる団体戦は、卒業直前3月上旬に和歌山で開催されます。「昨年は準優勝だったので、皆で力を合わせて優勝したいですね。大会後は和歌山に残って日本代表の強化合宿に参加。そのまま欧洲遠征に出発し、スペイン、フランス、オランダのレースに出場する予定です」

「関東学院大学OBである富澤慎選手が、オリンピックに3大会連続で出場なさっています。その日本のトップ選手を超える実力をつけて、世代交代できるよう、そして東京オリンピックに出場して良い成績を残せるよう頑張ります」

目標は、富澤選手が北京オリンピックで記録した10位を超えること。倉持大也選手の今後の活躍にご注目ください。



▲富士山をバックに、風を受けて滑走する倉持選手

ウインドサーフィン日本代表として、世界で戦う期待のアスリート
を目指すは日本のトップ選手、そして東京オリンピックへ。

ます。それが顕著に出るのが、風の強い時。強風域になると、ボードをいかに速く走らせられるかが勝敗につながるので、僕にとってはチャンスなんです」

その言葉通りの展開だったのが、昨年11月に沖縄で開催された「全日本学生ボードセイリング選手権（個人戦）」です。三日間、計9レースで競われたこの大会。

選手は、二日目に得意の強風域に変わると一気に2位へ。そのままの勢いで三日目トップに立ち見事優勝しました。

「どんな強い風でも練習してきた経験値があったので、他の選手が操船に苦しんでいる状態でも、落ち着いていつも通りやれば勝てるという自信がありました」

学生最後の大会となる団体戦は、卒業直前3月上旬に和歌山で開催されます。

「昨年は準優勝だったので、皆で力を合わせて優勝したいですね。大会後は和歌山に残って日本代表の強化合宿に参加。そのまま欧洲遠征に出発し、スペイン、フランス、オランダのレースに出場する予定です」

「関東学院大学OBである富澤慎選手が、オリンピックに3大会連続で出場なさっています。その日本のトップ選手を超える実力をつけて、世代交代できるよう、そして東京オリンピックに出場して良い成績を残せるよう頑張ります」

目標は、富澤選手が北京オリンピックで記録した10位を超えること。倉持大也選手の今後の活躍にご注目ください。



Contents

- P.1 関東学院 新ロゴ・マーク
- P.3 未来ビジョン(各校篇)
- P.5 のびのびのば園
- P.6 六浦こども園
- P.7 小学校
- P.8 六浦小学校
- P.9 中学校高等学校
- P.10 六浦中学校・高等学校
- P.11 Who's Who?
- P.14 関東学院ネットワーク

学校法人
関東学院

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1
法人事務局 ☎ 045-786-7028 (代)

<http://www.kanto-gakuin.ac.jp/>